

長野県林業総合センター - 塩尻市片丘 5739

Nagano-prefectural Forestry Research Center

TEL 0263-52-0600

FAX 0263-51-1311

## ヒラタキクイムシ

キ - ワ - ド : ヒラタキクイムシ、乾材害虫、広葉樹材辺材部

「家から小さい茶色の昆虫がたくさん発生した。」という相談が寄せられますが、多くの場合この虫は**ヒラタキクイムシ**です。

### ヒラタキクイムシ

家具や建築材から粉末状の木屑が噴出し、木屑を取り除いて虫孔（直径約2mm）があれば、ヒラタキクイムシに加害されていると判断できます（写真 - 1）。

ヒラタキクイムシは、百年以上前に熱帯、亜熱帯地域から侵入してきた乾材害虫で、現在は日本各地に分布しています。

茶褐色、体長2.2~8.0mmの甲虫で、5~7月にかけて被害材から2mm程度の円形の孔をあけて脱出します（写真 - 2）。

成虫は、夜間に活動し、乾燥広葉樹材の切断面から辺材部道管内に産卵します（写真 - 3）。

ふ化した幼虫は、道管内から材内に食い込み、不規則な孔道を形成します。秋になると材表面近くに移動して越冬し、翌春蛹となってから羽化脱出します。なお、この虫は1年1化で発生し、加害を繰り返します。

ヒラタキクイムシは、乾燥した材だけを加害するため、屋外では見つかりません。

このため、成虫が屋外から侵入して被害が発生することはまれで、ほとんどの被害発生原因は被害製品の持ち込みにあります。



写真 - 1 被害材にみられる虫孔



写真 - 2 ヒラタキクイムシ成虫

なお、ヒラタキクイムシは、デンプンを多く含む広葉樹乾燥材辺材部のみを食害し、針葉樹材や広葉樹材心材部には加害しません。

#### 被害

ヒラタキクイムシは、材内を加害しても材の表面を薄く残すため、材表面からは被害が発見しにくく、被害が進むと見た目以上に材内がボロボロになってしまいます(写真 - 4)。家具の棚が抜けてしまったり、床板が踏み抜けてしまったという事例もみられました。

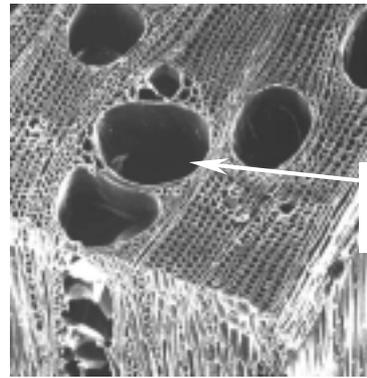
#### 防除方法

ヒラタキクイムシは、第二次大戦後ラワン材の主要害虫として有名になりましたが、防虫加工(ホウ素化合物注入)により被害が問題となることは少なくなりました。しかし、近年防虫加工されていない材が増加し被害が増えてきているようです。

ヒラタキクイムシによる被害が発生した場合、次のような防除を行ってください。

1. 木屑が噴出している箇所を発見したら、木屑を取り除いて市販のクイムシ防除用殺虫剤を周辺部分に噴霧するとともに、付属のノズルを用いて虫孔にも注入します。
2. 幼虫が材表面近くに移動してくる11月頃と成虫発生前の4月中～下旬に殺虫剤を木材の表面に塗布または噴霧します。
3. 塗装されていない部分をニス、ラッカーなどで塗装して産卵を防止します。

家具類を購入する際に、防虫加工済みの製品を選ぶなど被害材(ヒラタキクイムシ)を家屋内に持ち込まないようにすることが最も大切です。



この内壁に産卵する。

写真 - 3 ヒラタキクイムシの産卵部位  
木材の構造(日林協)より



写真 - 4 被害材の材内状況

担当者 育林部 岡田充弘